

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	・ICTを活用し視覚的な手がかりを示したり課題提示の工夫や板書の工夫を行ったりすることを通して、児童が主体的に学習に取り組む授業を実践する。	中間評価	・ICTを活用して課題提示の工夫を通して、児童が問いをもって主体的に学習に取り組むようになってきている。	最終評価	
環境づくり		・活動の流れを示し学習に見通しをもたせることで、主体的な学習ができるようにする。また、教室前面の掲示物の内容や量に配慮し、刺激量を調整する。		・見通しをもたせることは効果的である。教師主導になりすぎない見通しのもたせ方の工夫が今後の課題である。		

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組み（10月）	最終評価（2月）	
1	国語	・音読や読解力はほとんどの児童がよく理解できている。 ・書字が雑になってしまう児童がいる。	・促音の「っ」や、「を」と「お」、「わ」と「は」の正しい使い方に課題がある。	・毎時間の授業で、ことばのきまりに関する学習時間を設けて、繰り返し練習し、正しく使うことができるように指導していく。		
	算数	・計算するスピードには差があるが、正しく解決できる児童が多い。	・文章題では、問題の意図を正確に理解することに課題がある。 ・答えが10までの数のたしざん、ひきざんはできても和や差の大小を比べる問題ではつまずきが見られる。	・文章問題では、文中の大事な箇所マークさせるなどして問題の意図を正確に理解することができるようにする。 ・授業や宿題の中で既習事項の復習をする時間をとるとともに、具体物の操作を通して理解を深める時間を十分に確保した。		
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組み（4月）	中間評価・追加する取組み（10月）	最終評価（2月）
2	国語	学 ・言語事項では、漢字の定着はおおむね良い。 ・一方、「書くこと」では、型にはまった感想等は書けるものの、自分の考えをまとめて書くことに課題がある。また、「話す・聞く」では、自分の意見を伝えることはできるが、友達の意見を「聞く」ことに課題が見られる。	・「書く」では、自分の考えを順序立てて、書くことに課題がある。 ・「話す」では、自分の思いを話すだけでなく、聞き手を意識した話し方がまだできていない。 ・「聞く」では、自分の考えと友達の考えを比べて聞くまでは、意識できていない	・「書くこと」の単元では、自分の意見の組み立て方を確実に押さえる。定期的に日記等も家庭学習などに取り入れ、書く方法が身に付くようにする。 ・「話す」では、書くことと関連させながら、理由も交えて話すことを意識させる。「聞く」では、友達の意見と自分の意見を比べながら聞けるようにする。	・1日の出来事を振り返り文に表すことで、書く習慣を身に付けさせる。また、言語事項に関するプリントに取り組ませる。 ・スピーチや発表を通して話すことに対し、全体的に抵抗なく話すことができるようになってきた。友達の発表を静かに聞くことに課題が見られるので、引き続き指導していく。	
	算数	学 ・「ひょうとグラフ」では、双方のよさを理解し、読み取りもよくできている。 ・「たし算やひき算の筆算」では、計算の仕方をおおむねよく理解できているが、説明までできる児童は一部にとどまる。 ・数え間違いや、計算の誤答が多い。	・読み取りや計算は、おおむねできているが、数え間違い等から計算の誤答が多い。 ・計算の仕方は理解しているが、自分の考えを説明したり表現したりする力に差がある。	・基礎的な内容を確実に習得させるために、板書内容を整理したり、必要に応じてワークシートを作成したりし、ノート指導の充実を図る。自分の意見も書く時間を取る。 ・見直しの指導を繰り返し行うと同時に、東京ベーシックドリルや昨年度のフォローアップワークシート等を、活用し取り組ませる。	・自分の考えを図や言葉にして表すことで、少しずつ考えを整理できるようになってきた。説明したり、発表したりする際に活用できている。 ・問題の意図を正確に理解することが難しい児童が二割程度いる。文章を読み取る力を身に付けることができるよう、プリント等で補いながら繰り返し指導していく。	
3	国語	調 「読むこと」の正答率は、全国平均より10.4％上回った。物語文では場面の様子や登場人物の気持ちを、説明文では事柄の順序を考えながら内容を読み取る指導の成果と言える。 調 「話すこと・聞くこと」では、与えられた情報から必要な情報や不足している情報を読み取る力が十分とは言えない。 学 「書くこと」では、作文において自分の考えが明確になるように書くことが十分に定着していない状況が見られる。	・与えられた情報の一部は理解できているが、目的に合わせて十分な情報が取り出せていなかったり、不足している情報を把握しきれなかったりする状況が見られる。 ・書くときに自分の考えが明確になるよう、理由を添えて具体的に書くことが十分でない。無回答率の多さが課題である。	・「話すこと・聞くこと」の単元では、与えられた情報から目的に合わせて必要な情報や不足している情報を全体で話し合い確認する時間を必ず設定し、指導する。1単位時間では各時間のめあてを板書・音読し、めあてを意識して学習に取り組むことができるようにする。 ・「書くこと」では、自分の考えを書くとともに、そう考えた理由を必ず書くよう指導し、ノート指導も行う。	・目的意識や相手意識をもたせ、話したい内容の中心をとらせさせ、全体で確認する時間を設定したことで、だんだん聞き逃すことが減ってきた。メモを取りながら聞くことも大切なので、継続していく。 ・「書くこと」では、理由を添えながら書くことを意識させたことで、多くの児童が書けるようになってきた。今後も継続して指導していくとともに、書く活動を日常にも取り入れて自分の考えを明確に書くことができるようにしていく。その時に国語辞典を活用し、語彙を増やしたり漢字を適切に使うことができるようにする。	
	算数	調 「数と計算」の正答率は、全国平均より9.8％上回った。たし算・ひき算といった計算の技能や1000までの数の理解がきちんと定着していた。 調 「量と測定」の時刻と時間や長さ・かさの正答率が目標値を下回っていた。特に、かさの単位の関係を理解し、大小を判断することがまだ十分に身に付いていない。 学 時刻と時間の求め方の学習では、2つの時刻の間の時間を求める問題で戸惑っている様子が見られた。	・2つの時刻の間の時間を求める問題、ある時刻から一定時間前や後の時刻の問題になると正答率が下がっていることが課題である。 ・長さの違いをひき算で求めるとき、cm、mmごとに同じ単位で計算することが十分に理解できていない。 ・かさではL、dL、mLの単位の関係が十分に理解しておらず、数の大きいものを選んでしまう状況が見られる。	・「時刻と時間」の単元では、一人一つ操作できる時計を準備し、時計の文字盤や数直線を手掛かりにしながら問題解決ができるようにする。 ・「長さ」の単元では、レディネステストでcm、mmの復習をし、同じ単位で計算することを確認しながらm、kmの学習につなげていく。「かさ」については、フォローアップワークシートを活用し2年生の学習の復習を行う。また、「重さ」の学習では、g、kg、tの単位の関係が十分に理解できるよう、量感を大切にした体験的な学習を行う。	・「長さ」の学習と関連させながら、「重さ」のところでは天秤やはかりを使いながら算数的活動を多く取り入れ、主体的な問題解決ができるようにした。また、単元のまとめの時に東京ベーシックドリルやフォローアップワークシートなどを活用し、練習問題を通して習熟を図ってきた。ワークテストの結果からも、基礎的・基本的事項の定着が図られていることが分かった。 ・今後「小数」「円と球」「分数」の学習で、単位をそろえることやコンパスの正しい使い方、大小関係などつまずきやすいところを丁寧に指導し習熟の時間を取っていく。	

4	国語	調「読むこと」の説明文の正答率は、全国平均よりも9.8%上回った。 調「話す・聞く」は区内の平均とほぼ変わらなかった。 学書くことでは、作文において、要点を絞って書くことが十分に身に付いていない様子が見られる。	- 一部の児童は積極的に話せるが、全員が積極的に話すことまでは至っていない。 - 聞くことも同様で、目的に応じて聞くことに課題がある。 - 目的に応じて書くことに課題が見られる。	「話す・聞く」の単元で、話し合いの仕方を身に付ける。 - 他教科でも話し合いの活動を取り入れて、話す力と聞く力を丁寧に指導していく - 目的や相手意識をもって書く指導を継続的に行う。	- 司会や記録を立てながら意見を全員で出し合う話し合い活動を取り入れてきた。発表では、友達の発表の良さに気づき、自分と友達の考えを比較して聞くことを意識できるようしてきた。 - 書く学習では、相手意識をもたせるとともに、ICTを活用して書く視点を具体的に捉えさせながら指導した。書き方については、丁寧に引き続き指導していく。	
	算数	調全ての領域と観点別正答率も全国平均より上回っている。 学作図の学習において、見通しがもてない様子が見られる。	- 図形の問題では、作図の仕方が分かっているにもかかわらず至っていない。 - 用語についても確かめる必要がある。 - 見通しや作図の完成図をイメージできない様子も見受けられる。	- 図形の作図の活動を取り入れて丁寧に指導しながら、個別の指導もしていく。 1つずつかき方を確認して、継続的に指導していく。 「図形」領域においては、フォローアップワークシートを活用して3年生の学習の復習を行い、作図の仕方について確認していく。	- 図形の学習では、動画を使い書き方を提示し、個別に指導した。日頃から定規など算数用具をきちんと使い、習熟の学習も取り入れた。 - イメージできるように図を切り取り、敷き詰める等算数的活動を取り入れた。ベーシック・ドリル等を活用して基礎・基本を習熟し学力向上を図る。	
5	国語	調領域「話すこと・聞くこと」の正答率は、全国平均より14%上回った。 調全ての領域と観点別正答率も全国平均より上回っている。 学書くことでは目的や必要に応じて要点をまとめられない様子が見られる。	- 日常的な学習の中で既習事項の漢字を活用していない様子が見られる。 - 具体的な支援がなければ、どのように書いたらよいのか分からない児童が多い。	- 漢字を書くことでは、「正しく覚えること」と、「日常で活用していくこと」の両方を大事に指導していく。 - 順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く力が身に付くようにする。	- 毎日の漢字の学習で正しい漢字を覚え、学校行事の振り返り作文などを通して、漢字を活用するように指導できた。 - 書く活動を行う際に構成メモを取り入れたり、推敲の流れを示したりすることで、児童が構成を考え振り返られる支援を引き続き継続していく。	
	算数	調領域「量と測定」、観点別「知識・理解」は、全国を僅かに上回っている。 調全ての領域と観点別正答率も全国平均より上回っている。 調「関心・意欲・態度」においては全国平均を下回っている。	「関心・意欲・態度」の領域が一番の課題であり、一般的な内容理解が難しい。 - 既習事項が定着していないため、算数に対する抵抗感がある児童が多い。 - 図形においては切り取らせたり、敷き詰めさせたりしなければ、図形への理解が難しい様子が見られる。	- 個に応じてどの児童も基礎・基本を確実に身に付けられる授業を行う。 「分かる」「できる」「喜びを味わわせる」ために個別の支援を行い、算数への「関心・意欲」を高める。 - 学習した図形を切り取らせたり、敷き詰めさせたりするなど、算数的活動を取り入れる。	- 具体物を使った算数的活動を取り入れることで、算数に対して苦手な意識をもっている児童も取り組みやすいように工夫した。 - 九九カードや筆算の流れを示したヒントカードを個別に配布して支援することで、意欲をもって取り組む児童が増え、基礎・基本の定着につながった。	
6	国語	調全ての領域の正答率が、全国平均を上回った。 調書く能力の正答率が、他の領域と比べると少し下回っている。 学「書くこと」では、課題に対応した文章を書き出すことが、十分に身に付いていない様子が見られる。	- 課題に対応した文章を、的確にとらえて過不足なく書き出すことに課題が見られる。 - 自分の考えの根拠を明らかにして、考えをまとめることに課題が見られる。	- 授業の中で、課題に対応した文章を書き出す学習活動を設定して、書く力を高める。 - 事例と筆者の考えを読み取る力を身に付けさせて、事実をもとに自分の考えをまとめることができるようにする。	- 説明的文章の学習では、筆者の考え等が具体的に分かる文章を書き出す学習を取り入れる。 - 意見文等、自分の考えを書く際は根拠となる資料を明確にするように指導する。	
	算数	調全ての領域において、正答率が全国平均を上回った。 調学習したことを活用して、課題を解決する力にやや課題が見られる。 学小数や分数の計算等の基礎・基本の定着に、若干の課題が見られる。	既習事項を使い、自分の考えを書き表すことに個人差が見られる。	- 公式などを学習する際には、「どうしてこうなるのか」を考えて、理解した上で使うことができるように指導していく。 - 自分の考えを書く際には、十分に時間をとり、図・式・言葉を使って表せるように声を掛け、自分だけでなく友達も理解できる発表を繰り返すことで、考えを書く意欲を高めていく。	- 東京ベーシック・ドリル等を活用して基礎・基本を復習し、一人一人学力の向上と定着を図っていく。 - 図・式・言葉を自分の思考の流れに沿ってノートに書くことができるように指導していく。	
音楽	学	学全体的にどの学年も音楽の学習に意欲的な児童が多く、すすんで表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。	音楽に対する興味・関心は高いが、自己肯定感の低さが原因となって学習に主体的に取り組めないことがある。	- 個のよさや学級のよさをほめて自己肯定感を高めていくとともに、互いのよさを認め合う活動や場の設定を工夫する。 - カードや掲示物を活用し、スモールステップで達成感を味わわせながら学習を進めていくようにする。	互いに歌声や演奏を聴き合ったり教え合ったりする活動を意図的に設定することで、がんばりを認め合ったり互いの音楽表現のよさを感じ取る様子が見られた。引き続き行っていく。	
図工	学	学材料に積極的に関わるとともにすすんで活動し、自分なりの表現を試して発想を広げようとする意欲的な児童が多い。	自分の表現への肯定感がやや低く、自分のイメージに合わせて色や画材や素材を選んで表現する力に課題がある。	- 自分の表現や他者の表現のよさに気づき、自信をもって活動できるように、よさを言語化して伝える活動を工夫する。 - 画材や素材を表現に合わせて豊富に用意し、選択させる活動場面を設定し、思考力・判断力・表現力を高める。	- 題材ごとに作品鑑賞の時間を設定し、カードに友達のよさを記入して渡したり発表したりする活動を取り入れる。 - 画材による表現の違いや効果の違いを試す時間の設定し、可視化できるように掲示物等を工夫する。	
特支						

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。